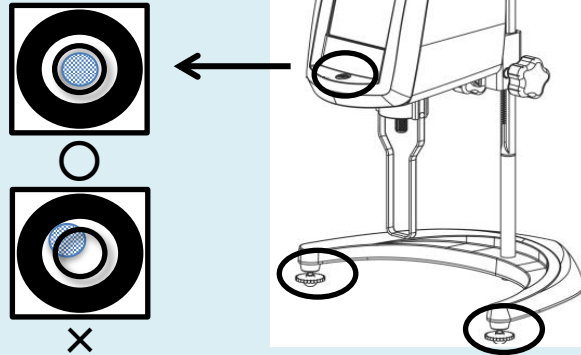


DV2T使用方法（簡易版）

1. 水準器を見て装置の水平を確認します。
2. 電源を入れ、画面表示に従いオートゼロを行います。
3. 使用するスピンドルを選択します。
4. 測定する回転数を入力します。
5. 測定終了条件を選択します。
6. データ取得条件を設定します。
7. 測定を開始します。

1. 装置の水平を確認

真上から見て水準器の気泡が黒い枠内に収まるようにレベリングスクリューを調整します。



2. 電源投入・オートゼロ



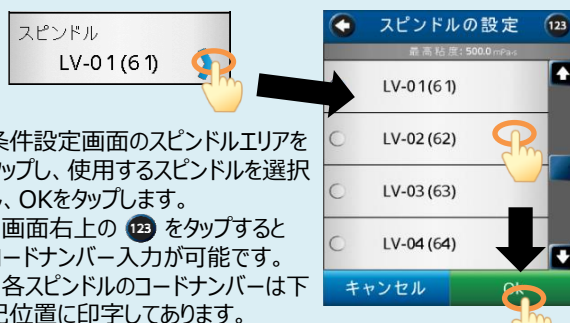
電源を入れ、起動画面からオートゼロ画面に自動的に切り替わります。

スピンドルを取り外し、【次へ】をタップします。

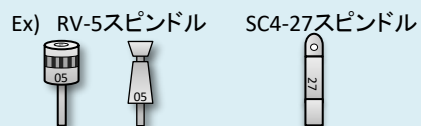
オートゼロが15秒程度で終わり、上記画面が表示されます。

オートゼロが終わると、条件設定画面に移動します。

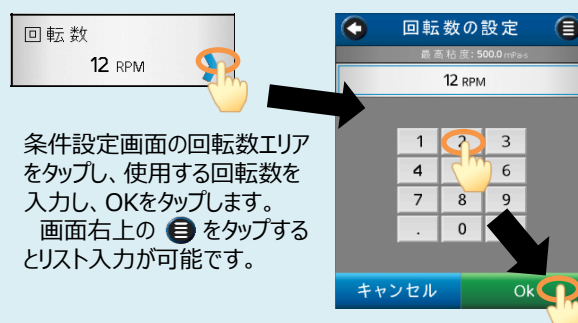
3. スピンドルの選択



条件設定画面のスピンドルエリアをタップし、使用するスピンドルを選択し、OKをタップします。
画面右上の 123 をタップするとコードナンバー入力が可能です。
各スピンドルのコードナンバーは下記位置に印字してあります。



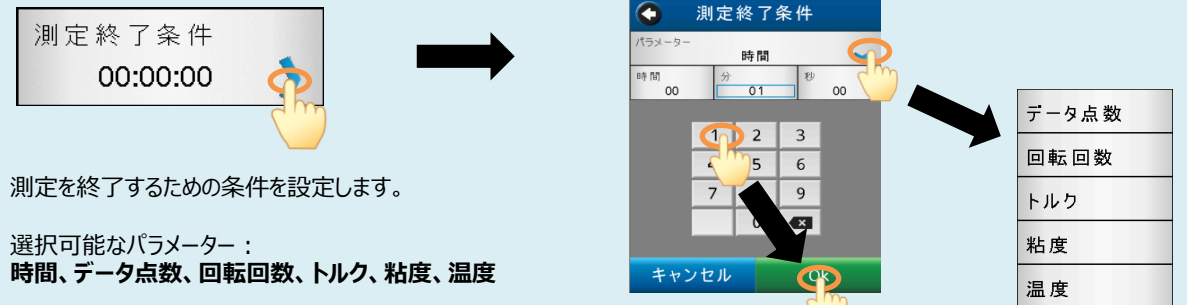
4. 回転数の選択



条件設定画面の回転数エリアをタップし、使用する回転数を入力し、OKをタップします。
画面右上の 123 をタップするとリスト入力が可能です。

Tip! : スピンドル・回転数の選択画面では、選択中のスピンドル・回転数の場合の測定最大粘度値が画面上部に表示されます。

5. 測定終了条件の選択



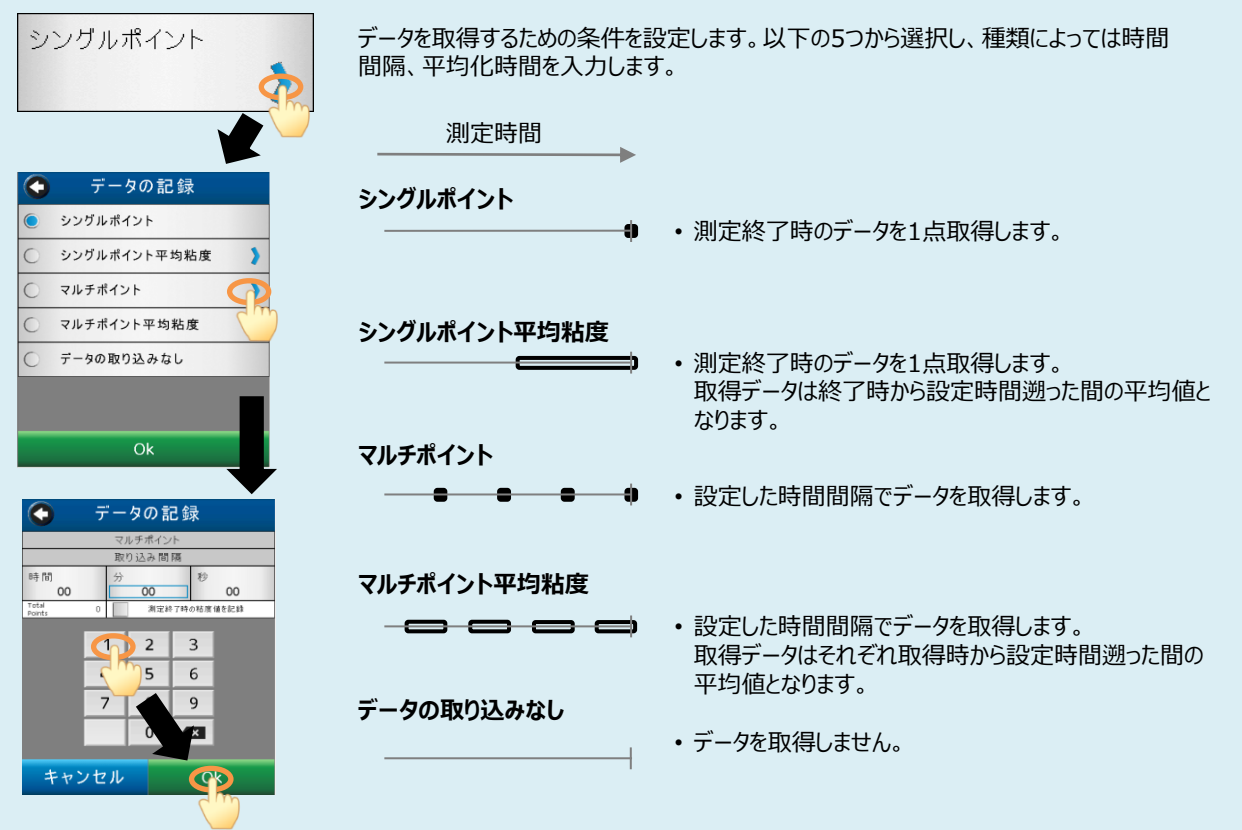
測定を終了するための条件を設定します。

選択可能なパラメーター：
時間、データ点数、回転回数、トルク、粘度、温度

パラメーターを選択後、パラメーターに応じた値を入力してください。

※パラメーターを『時間』、値を『00:00:00』と入力した場合、測定終了はマニュアル操作となります。

6. データ取得方法の選択



7. 測定

測定開始 ボタンを押して、測定を開始します。

英弘精機株式会社

8. 測定条件・測定データの保存方法

編集した測定条件の保存 測定したデータの保存



保存先、ファイル名、ファイルタイプを入力・選択し、【保存】を押すと、測定条件又は測定データが保存されます。

保存先選択画面



データを保存する場所を選択します。
 で下層フォルダに移動します。
 で上層フォルダに移動します。
 でフォルダを作成します。

ファイル名入力画面



保存するデータのファイル名を入力します。英数字と一部の記号のみ入力可能です。

ファイルタイプの選択

.dvt - 粘度測定条件	.vdt - 粘度測定結果
.csv - CVSファイル カンマ区切り	.csv - CVSファイル カンマ区切り

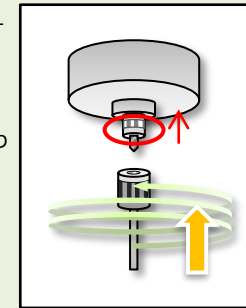
測定条件形式
 [.dvt]形式・・・DV2Tで呼び出し可能
 [.csv]形式・・・測定条件をエクセルで表示

測定結果ファイル
 [.vdt]形式・・・DV2Tで呼び出し可能
 [.csv]形式・・・測定結果をエクセルで表示

ブルックフィールド粘度計を扱う上での基本的な注意事項

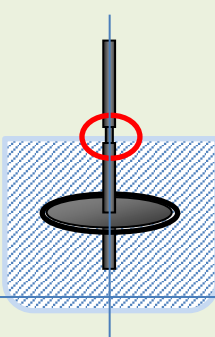
スピンドルの取付・取り外しについて

スピンドルを取り付ける際、取り外す際には、カップリング部（右図赤丸部）を持ち上げながら行ってください。このカップリング部分は絶対に下に引っ張らないでください。



精度の高い測定のために

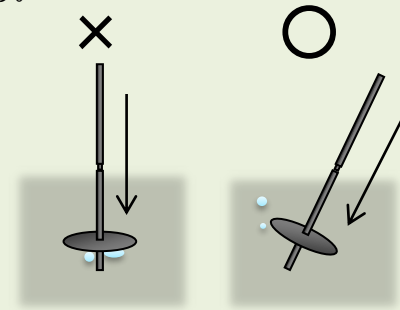
サンプル量について
 スピンドル中ほどの窪み（右図丸印）に液面が来るように高さ、サンプル量を調整してください。



スピンドルの位置について
 容器の中心にスピンドルの軸が来るように位置を調整してください。スピンドルと容器壁面が近すぎる場合、粘度値が高めに出ることがあります。

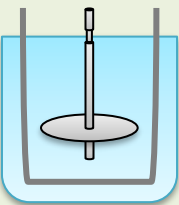
標準スピンドルの浸し方

標準スピンドルは液面に対して斜めに差し込んでください。気泡が残ると正しく測定できません。特に、粘度が高いサンプルや径が大きいスピンドルを使用される時は注意が必要です。装着前にスピンドルを一度サンプルに浸すと、さらに気泡が入りにくくなります。



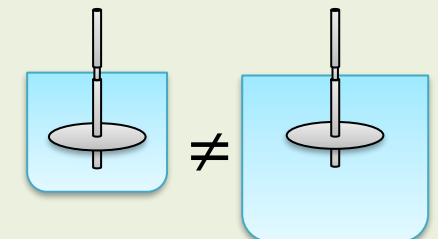
ガードレグについて

トルクタイプLV、RVの場合、ガードレグが付属します。標準スピンドルで測定される際には、ガードを装着してから測定してください。HA、HBタイプにはガードは付属しません。



粘度値を比較する際の注意点

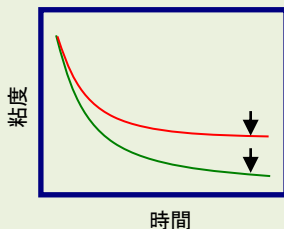
容器サイズが異なる場合



ブルックフィールド粘度計を用いてサンプル間の粘度値を比較する場合、容器の大きさ、サンプル量をそろえる必要があります。

粘度値の安定

塗料、ペーストなど比較的粘度の高いサンプルは粘度が安定するのに時間を要します。精度の高い粘度測定を行うために、スピンドルが少なくとも5回転して値が安定してから計測値を記録してください。



トルクレンジについて

本製品の適正トルク使用範囲は10%～100%です。

トルクが100%を超えると（トルクオーバー）、測定中画面の粘度値・トルク・せん断応力の欄に『EEEE』と表示されます。測定時のトルクが10%を下回る場合（アンダーレンジ）、画面の粘度値・トルク・せん断応力の項目が点滅して表示されます。

トルクオーバー
 →回転数を下げる or 小さいサイズのスピンドルを使用する

アンダーレンジ
 →回転数を上げる or 大きいサイズのスピンドルを使用する

9. 測定条件・測定データの呼び出し方法

液晶上部に表示されるホームアイコンをタップします。



左図のメニュー一覧から呼び出す項目を選択します。

【粘度測定】をタップし、呼び出すファイルを指定します。



目的の測定条件/測定結果ファイル名をタップすると、保存した測定条件/測定データが表示されます。

で下層フォルダに移動します。
 で上層フォルダに移動します。